



『全国高校野球大図鑑2019』 って何だ？

本誌『野球太郎』のスペシャルエディション『全国高校野球大図鑑』の2019年度版は現在、好評発売中。高校野球のチームガイドの決定版は、ドラフト候補選手のウォッチングにもきつと役立つはず。その内容と一部データを紹介しよう。

高校野球の今がわかる チームガイドの決定版！

『野球太郎』のスペシャルエディションとして発売中の『全国高校野球大図鑑2019』は、2017年秋に発売した『全国高校野球大図鑑2018』の改訂版だ。あれから1シーズンを経て各種データを更新。監督交代など状況が変化したチームは、可能な限り最新情報を盛り込んである。

初めて『全国高校野球大図鑑』シリーズを知る人のために内容を紹介しよう。この本を一言で表現すれば、高校野球のチームガイド。名門校から無名校まで、甲子園の成績、各都道府県大会および地区大会の成績、出身プロ野球選手数、進路（主要大学・社会人チームへの進んだ選手数）を調査、集計し、それぞれをポイント化してランキング。夏の選手権49地区ごとにそれぞれの地区トップ10を割り出す。さらに、その結果をベースに地区内の有力校を10×12校ピックアップ、各チームの歴史や現状を紹介している。この1冊があれば全国の有力校と今の状況が把握で

きると言っても過言ではない。

大きな特徴は「今」という点だ。ポイント集計の軸となっているのは「1998年」。甲子園の成績は春夏全大会をポイント化しているが、1998年以前のポイントは低く、それ以降は高くと差をつけている。また、各都道府県大会および地区大会の成績と進路は1998年以降の数字をポイント化。出身プロ野球選手数はドラフト制度以降が集計対象だ。つまり、ポイントはこの約20年の実績が主に反映されているわけである。

理由は、現在のチームガイドとして機能させる場合、あまりに古い実績は、現状と齟齬が生じる可能性が高いからである。この本は歴史書ではなく、あくまでガイド。たとえば「戦前に多大な実績があったが、現在は弱小校」と「創設から20年だが、今や県内有数の強豪校」であれば、後者を優先的に評価。紹介した方が観戦には役に立つだろう。もちろん、歴史にも配慮はしている。地区全体の概要解説では簡単に地区の歴史にも触れているので、かつての強豪校も、ある程度は把握はできる。

ちなみに1998年を軸にしているのは、詳細は長くなるので省くが「松坂世代」であるこの年は、『野球太郎』発足の年であると同時に、いろいろな点で現代高校野球のターニングポイントだったと考えているためだ。

また、もうひとつの特徴は、ポイント化において出身プロ野球選手数のポイントを高めに設定していることだ。具体的には、1998年以降の春夏甲子園優勝は10ポイントだが、高校から直接ドラフト指名を受けて入団した選手1人あたりのポイントも同じ10ポイント。これは『野球太郎』が「ドラフト的視点」を重視して創刊した経緯を考え、「勝利と育成は同等」と評価したためである。

高校生のドラフト候補選手にとって、所属しているチームがどのようなチームかを知るかは、選手の見方を深くし、観戦を楽しくしてくれる。大学生や社会人の選手、あるいは独立リリーガーにしても、どのような高校で野球をしてきたかは重要なポイント。ぜひ『全国高校野球大図鑑2019』で、高校野球の「今」を感じてほしい。